

## うれし涙でかわいいね

—保育所でおゆうぎ会—

保育所恒例のおゆうぎ会は、十一月に入って次々開催され、園児らはつめかけた父母の前に、日頃の練習ぶりを元気いっばい披露しました。

おゆうぎ会では、園児らの元気な歌声からスタートして、「おでかけペンギン」までよパーマン「科学戦士ダイナマ」など、子供たちが大好き

な遊戯のほかに、「りこうなこひつじ」泣いた赤鬼」の劇などがあり、プログラムも盛りだくさん。

また、孫の晴れ舞台をひと目みようとかけたおじいちゃんや、おばあちゃんたちも、子供たちの華麗な踊りに、「よくもママ、こんなに……上手に踊れるもんだろかわいい、かわいい！」とうれし涙で、大きな拍手と声援を送っていました。



### 今月の主な記事

- あなたと語る村政懇談会……………(2)～(3)
- 人工砂丘が完成、陸奥湾一周駅伝……………(4)
- 新教育長に柏谷秀一氏  
消防団長に三和清平氏……………(15)
- 歴史漫歩……………(16)
- おしらせ……………(17)
- 戸籍……………(18)



# あなたと語る村政懇談会

みんなで語りみんなで創ろう  
われらのまちを



産業経済、建設土木関係の懇談会では活発な意見交換がなされました。

## 意見発表者

- ・十三漁業協同組合長
- ・市浦村農協青年部長
- ・工藤 章二郎
- ・三和 金春
- ・馬元漁業協同組合長
- ・司会
- ・山田 弥佐雄
- ・企画財政課長
- ・市浦村商工会長
- ・高松 隆三
- ・三和 芳次

「あなたと語る村政懇談会」は、十月二日午前十時から、市浦村コミュニティセンターに村民五十二人が出席して開かれました。

村政懇談会は、村長と対話をしながら、村政全般にわたる政策を正しく、深く、広く村民に知らせ、血のかよった心ふれあ、うるおいとまとまりのある村づくりを目指しています。

なつながりを持つている役場は、地域住民の安全と健康、福祉等を目的とした機関であり生活全般にわたって仕事をしています。

一つの方角で進めていくためには、たいへんな困難があります。

望ましい村政とは何か、あるべき村政とはどういうものなのか、それぞれの立場から意見を出していただき、みんなで語りあいながら、共通理解を深めようとするものです。

第一回目は、教育、民生関係に關心のある人々を対象に懇談会を開催しましたが、今回の村政懇談会は、産業経済、建設土木の関係者を集めていただき、村政に関する問題点や課題について話あつていただきました。

会議では、成田義衛収入役が「村政を進めていくためには、いろいろな問題があるわけ、村民のみならずとつくり語りあい、一つの目標を求めていきたい」と開会のあいさつをしたあと、司会の高松隆三企画財政課長から、懇談会開催の趣旨説明がありました。

そのあと、三重寅村長の施政方針、松江春勝経済課長、竹谷剛建設課長から具体的な行政施策の説明と、各団体代表者の意見発表がありました。



懇談会では、畜産、畑作振興、沿岸漁業の振興、観光・商工に至る専門的な分野での話し合いが活発に行われました。

今回は、総務、企画、地域開発、出稼き問題などについて懇談会を予定しており、村民多数の参加を呼びかけています。

# 施政方針



市浦村長 三重 貢

## 農業機械の合理化

### 加工作物の奨励

私はこれまで、数多くの村民と語りあい、いろいろなことを約束して参りました。私がいう生産増とは、単に所得を倍にするということだけではなく、汗をしてみんなが働くことでもあります。

本村の水田の四分の一(約百二十町歩)は、現在休耕にしておりますが、そういうところに手を加えて、何かをやるのではないかと、四百町歩におよぶ畑地を何とか手を加え、汗を流して耕し、そこから産物を得る。いまの農産物の生産を倍にしようという思想であります。

現在の水田耕作については異常なほど生産コストが高くつく。米値が上がってれば生産コストについては、あまり問題にしないでよいの

ような方策がとれないか、どうか、検討中でありませう。また、畑作振興は作物を加工して売ることが、より多くの収入が得られることから、農産物加工場の建設も考えているところです。

## 行政指導を強化し

### 畜産危機を打破

畜産危機といわれているように、畜産農家は、いろいろな頭を悩ましています。しかし、この状況は「一時的な経過」だと思っています。私たちが、肉を作っている限り、肉の需要は減ることはなく、将来的には、その需要は増大するものと期待しています。

牛肉を外国から輸入しよう。現在のように、米値が低迷している限り、私たちは何を考えなければならぬかというところだ、と思います。生産コストを下げ、米値が低下しているため、農家で頭を悩ましている経済負担や農作業用機械の合理化をはかるべきだと考えています。したがって、機械公社を作り、村で資金を肩がわりして、耕作まで手を入れるべきだと思います。

もちろん、にんじく、らっきょうなど、現金収入につながる作物も奨励しますが、加工できる農産品の作付けを前提に農業を考えていきたいと思っています。

## 漁業実証船の建造

### 水産加工場の設置

隣村には、小泊漁協や下前漁協があり、年間三十億円近い漁獲量を上げているにもかかわらず、本村での漁獲量は一億円になっていない。この原因はどこにあるのか探究すべきだと思います。

気と努力をもって、生産所得の拡大をはかる必要があると同時に、行政の対応としては、実証船の建造や、水産加工場の設置等を考えており、漁民の目を、海に向けさせることが必要であると考えています。

## 他産業と結びつけた

### 観光開発

本村の恵まれた観光資源と他産業を結びつけた観光開発が必要であり、観光による収入をいかにして増大させるかが重要な課題であります。単に資源を提供して、ゴミ拾いだけをするのではなく、積極的に資源を活用しながら所得の向上をはかる。そのためには、観光施設の整備が条件となるが、村単独の事業としては、非常にむずかしい面があります。

## 漁場づくり

### 十三湖の環境保全

十三湖の主産物はシジミ貝であるので、永久的に採れるような対策を講じなければなりません。水が出るたびに、上流からの土砂が流入して十三湖に堆積し、シジミ貝の生産に大きな影響を受けています。

昨年、全滅するくらいシジミ貝が死んだともいわれていましたが、シジミ貝の生命があります。また、前湖の開発も、将来的な展望の中で位置づけながら、利用計画を進める所存であります。

### 行政施策説明

## 産業経済

### 機械公社設立を検討



経済課長 幸勝 江松

地籍調査によって新反別が出ていますが、調査が完了した時点では、その作付け面積が五百二十ヶ年前後になるものと予想しています。

春先は夏型の天候で、六月からは低温続きの異常天候が続ききました。

青森気象台市浦観測所調べでは、五十一年から五十七年までの平均気温に対し、ほとんどの月が低くかつた。

また、四十二日間にわたって「ヤマセ」が続いたことも低温になった原因である。

村では、凶作を懸念し、農作物異常対策準備会を開いて、稲作管理を重点に指導してきているところがあります。

本村の水田面積ですが、昭和五十三年から実施される水田利用再編対策による減反面積は、百十五ヶで、現在作付けされている面積が三百六十二ヶあります。

は抑制されますし、今後は生産コストを下げることに心掛ければならない。

### 六十年には草地308町歩に

本村は、昭和三十二年以來肉牛を導入して、畜産振興はかかってきましたが、昭和五十二年一月に策定した市浦村肉用牛生産振興計画によると、昭和六十年には、一千七百五十頭を目標にしています。

計画前の草地面積は、百六十九ヶですが、目標頭数に合わせて、昭和五十六年から十年までの予定で、県営草地開発事業、国営草地開発附帯事業が実施されています。

この事業では、百三十九ヶ畜産と畑作振興は、深い係わりがあるので、さらに畑作振興に力を入れていきたいと考えています。

### 農協青年部に期待する

畜産と畑作振興は、深い係わりがあるので、さらに畑作振興に力を入れていきたいと考えています。

る農外収入が農機具購入費の返済に当てなければならぬことから、出かせぎが余儀無くされるわけでは、農業機械公社などを検討しているが、農協や農家の人たちとも、じゅうぶん話しあいを深めることにしています。

### 研究したい捕る漁法

三千万粒規模のサケ・マスふ化場を設置しているが、当初の計画では、将来、十三湖にそよさせるサケ・マスを約三千尾を想定したものです。

放流した稚魚が、四年後に回帰するということが、五十七年から五十九年までの覚書によって、岩木さけ、ます漁

### 期待される前潟開発

長年の念願である、十三の前潟活用については、津軽海城総合開発計画の中で、ひらめの中間育成をはかる構想が具体化しています。

また、調査段階ですが、前潟が漁場に適していることがわかれば、六十年から事業が開始されることになり、一反歩当たり四百三十九坪の生産で、金額的にも九万一千円でありました。

からも大きな期待が寄せられているところだ。

村としては、にんにくを含めて、加工産業に適した農作物の奨励をおこない、畑作振興をはかる考えであります。

業協同組合）共同採捕を実施しています。

十三湖内に底置網二ヶ統たつたこともあり、五十七年には百三十尾と少ない数量になっています。ことは、一千尾採捕を目標にしています。

並列漁礁を三回で、三百八個、昭和三十八年から現在まで、昭和三十八年から現在まで、大型漁礁が六回で、七千三百四十五個投入しています。

漁礁投入場所の位置図等については、各漁協に送付してありますので、関係者の漁場活用を期待しています。



# 建設・土木

## 待望の相内バイパス着工

### 中島遊歩道橋の架橋も



建設課長 竹谷博則

国道三九号線の相内バイパスが採択されて、今年

から工事がスタートしました。総工費十五億円を三工区に分けて工事を進めるわけで、通常のペースでは一工区五年かかっているの、バイパス完成まで十五年かかることになります。今後この工期の短縮をはかり、早期完成に全力をあげる考えであります。

山村広場施設整備事業については、野球場を中心とした施設整備をはかる。と五千四百二十六万四千円を投入して、工事をすすめているほか、テニスコート、多目的広場の整備も実施しています。十三湖中島遊歩道橋の架橋工事については、約一億二千万円を投じて今年度から着工する予定になっており、来年九月には完成させることにしています。



## 意見発表

### シジミの加工で所得拡大

十三湖の約九割はシジミであるが、基幹漁業であるシジミをもっと生かす必要がある。試験場の調査では、十三湖のシジミの生棲量は大体一万ト。その三分の一(約三千ト)程度は採取しても資源には影響がないともいわれている。

今年生産量は例年の三分の一の一千二百ト。車力では一千ト弱で金額にして一億五千万円の減です。減取の理由

としては、シジミの異常死と今回の中部地震、津波によるものがあげられますが、組合に対する一元集出荷もなかなかできず、取り子対業者がそれから業者が持っている販路を崩すことも難しい状況です。

原料の豊富なシジミに付加価値を高めるためにシジミの加工を考えてみる必要があります。例えば、シジミを煮つ



十三湖漁協組合長 工藤章二郎さん

めてつくる。シジミエキスは肝臓に効く薬としてハワイ方面からの輸入希望があり、すでに輸出されていることも聞いています。



多額の金をかけている鮭の増殖事業も再検討の時期にきているのではないだろうか。経費を軽減するために十三湖で刺し網をしている漁業者を特探組織の中にいれ、捕った鮭をふ化場へ持っていく方法

前掲の金をかけている鮭の増殖事業も再検討の時期にきているのではないだろうか。経費を軽減するために十三湖で刺し網をしている漁業者を特探組織の中にいれ、捕った鮭をふ化場へ持っていく方法

製造工程の経費を半分とみて一億二千万円になります。薬品会社では六十から四千八百円を販売しているようですが、全体量が少ないために新しい製造方法を、考案中であり、十三湖にも調査に来ております。

前掲の金をかけている鮭の増殖事業も再検討の時期にきているのではないだろうか。経費を軽減するために十三湖で刺し網をしている漁業者を特探組織の中にいれ、捕った鮭をふ化場へ持っていく方法





を検討してみてもどうか。  
 鮭を海中飼育することは値  
 段が何倍にもなるので、前掲

## 中島の公園化と施設整備の充実

本村には、恵まれた観光資源がたくざんあるわけですが、観光客の入込みが期待できるような中島の公園化を促進していただきたいと思う。

相内美取地区の景観もすばらしいことだし、観光牧場としての施設が必要だと思う。相内の大沼地区を村民想いの



協長 山田 弥彦  
 漁協 協長 山田 弥彦

## 漁協を合併して体質改善を

海洋法に基づく二泊海里岸水域が指定されてから、沿岸漁業が急激に低下し、捕る漁業から育てる漁業へと移行してきました。養殖事業や栽培事業をはじめとする大型漁礁、並型漁礁などには莫大な資本を投じてきたところであり、

漁民がいちがんとって漁業

を高度に立体的に利用していく必要があると思う。

場、小公園として村民に楽しんでもらうために、村観光協会では一本のさくら苗木の植樹を計画しているが、植える場所がありません。今年は百本植えたが、牧場の柵を湖畔から約五十メートル範囲であけてもらうと一千本のさくらを植えることができると思います。

振興に立ち上がらなければならぬ時代だと思います。国の制度資金や、近代化資金を借りることも必要ですが漁協の体制を強化して、二十一世紀に向けて、前進していかなければならないと思います。

村当局も漁協合併についてじゅうぶん検討し、指導していただきたい。

協元、磯松海岸の離岸堤の着手については、まだはつきりしていませんが、協元、漁港の方から着手するように、関係機関に働きかけてほしい、と思います。

## 観光土産品の開発と地場産業の振興

商工会は、昭和三十六年に発足し、八十名の会員でスタートしました。昭和三十七年二月、商工会法に基づき公益法人として正式に許可され、商工会の事業協力と商工業の発展をはかるための後継者の育成がはかられてきました。



商工会長 芳次 三和

三十五、その他八で、商工会員は百四十八名であります。事業内容は、商工業の改善、事業収支の健全化をはかるための各種講習会（金融、税務関係、経理、経営を含む）、販売上最も大切なといわれる情報提供などがありますが、従業員員の定住対策として、優良従業員の表彰も実施しています。予算は約一千二百五十二万円ですが、ほとんどが補助金でまかなわれております。異常気象による農作物の被害等で、地域の経済が大きく落ち込んでいます。商工業者の所得も大きくダウンし、予算面でも収入減が目立っております。商工会としては、本来の商工業者の指導、経営改善、商工業の資質の向上に重点をさくと同時に、地元消費者のサービスの検討や身近にある物を利用した土産品を考え、お互いしあいながら地場産業の振興に努め、観光の開発にも力を入れていきたいと考えております。



# 畑作振興で 魅力ある農業



農協青年部長 金春 三和 さん

「夏に農作業をして、冬になると出稼ぎをする」というくり返しが、本村における農家の形態であります。

若い人たちの農業離れも大きな問題となっておりますが、なぜ、若者が農業離れをするのか考えてみると、農業だけでは食べていけないし、農業に魅力がないからではないでしょうか。

若者がやる気なくするということは、いまの農業にとって、これはごわいものはなっています。本村の水田は、先祖代々耕作してきたものを、そのまま引き継いで耕作しているにすぎないのです。

## 水田の区画整理

本村で農業を営んで行くためには、水田の区画整理をす

べきたと私は思います。

区画整理することによって、生産費の節約もでき、大型農業機械の共同利用をはかることによって、これまでのような農家の過剰投資もなくなり、揺れ動く日本の農政にも立ち向って行けるのでは無いでしょうか。

しかし、稲作の場合は、この村での土地の奪い合いをしなれば農家は大きく大いなし、土地を奪った農家が大きな収入を得る一方が小さくなる……。

このように、農家同志のつがしあいをやっていたのでは、本村の農業の発展はありえないのです。

こういうことの反省に立つて考えてみると、畑作よりないと思います。

## 大型機械の共同利用

本村には現在、畑地がなりそうなる原野が百町歩ぐらいいあると思う。この百町歩の農地を団地化して、大型農業機械

を共同利用するならば決つて無理な面積ではないと思う。畑作には堆肥が必要ですが幸いにも本村には市浦牛が約一千頭います。ちなみに一頭の牛から二割の堆肥が出ているわけですが、本村では現在年間二千割の堆肥がわもつていっていることになります。

## 畜産と畑作の兼業化

畑作振興を本気でやるためには、二千割の堆肥では足りません。百町歩の畑に必要な堆肥の量は四千割。

その不足分の量は、ワラとかモミ殻を利用することによって、じょうぶな補えになるようになります。

百町歩の畑に市浦牛の副産物である堆肥を活用していくことによつて、将来は、少なくな見積つても年間約三億円ぐらいの収入があると思われる。すし、本村が一大野菜産地となることも遠いことではないと思います。

本村の農家が、農業で生活できるような農政を期待すると同時に、私も含めて、若い人たちのやる気と奮起を促していきたいと思ひます。

## 発表者に対する説明



村長 三重 貢 さん

本村の農業を運営、発展させるためには、農協の果たす役割りは、百割のウエイトを占めるものと考えている。

農業を農協自身が、どういう方向で考えているのか、農家対策をどうしようとしているのか、農協の考え方を知らなければ、農協からの発表者がなく残念である。

しかし、各団体の代表者からは貴重なご意見を聞くことができたので、意見発表者に対する考え方を申し上げます。

**工藤さんの意見には**  
前潟の活用については「高度に利用して、立体的な利用方法を考えるべきだ」という提案がなされましたが、私も同じ考えであります。県では、ヒラメの養殖場として利用することを考えているようですが、十三漁協の関係者の中には「シジミ貝の産地」にしよう

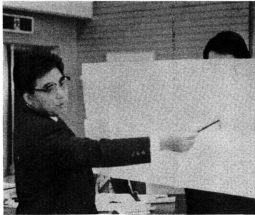
う、という意見が多いようであります。シジミ貝の産地にするためには、塩水では無理だし、カキなどをやるには塩水でないやれない。

塩水であれば、いろいろ仕事はしやすいので、一応、塩水での養殖機構というものを考えてみたいと思つています。シジミ貝の産地と養殖事業を組み合わせるためには、わずかしい面がありますので、前潟活用については、部落内の意見調査をはかりながら、取りこんでいきたいと思つています。

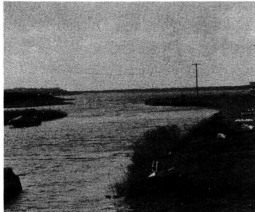
観光施設整備については、何よりも優先させ、単なる経過地から、観光客が滞留するような施設づくりをしようと考えています。

しかし、施設整備を全て、村の財政でやることは、きわめて困難であることから、第三セクターに働きかけながら整備していくことも考えております。





バイパスの建設ルートを説明する建設課長



開発利用が期待される前浜

水田区画整理も一つの方法だが、現在の水田は百町歩当たり、二十五町歩は転作などで休耕しています。そういう状況の中で区画整理をしますと、七十五町歩の水田の生産力で、もう二十五町歩分を背負ってやらなければなりません。これを解決するためには、本村の休耕田百二十五町歩、米とひっつけてきたような作物をつけて活用することが必要であります。休耕田をいかに活用するかによって、水田区

画整理もできるだろうし、将来の農業振興にもつながるものと考えます。堆肥については、全く同感でありますので、もっと積極的に活用方法を考えなければならぬと考えています。

竹谷博則建設課長  
離岸堤については、地域住民からも強い要望があり、県にはたからかかっているが、財政事情が良くないということが、今後も積極的に努力したいと思っています。

圃場整備が進まなかった原因の一つとして、負担金の問題が大きなウェイトを占めている。簡単な整備一反あたり百八十万円の事業費が必要で、農家からは二十五町の負担割合いとなつていきます。

市浦村の土壌改良事業については一五割一反歩九万二千七万円(の負担金が必要)となり、その他調査費についても負担金がかかります。

相内、太田、桂川地区をまとめて、県営の圃場整備事業として考えているが、その採択要件は二百町歩以上になり、県の土地改良事業の長期計画にのせています。

**山田さんの意見には**  
山田組合長からは、二百海里専管水域の問題と沿岸漁業の振興が提案されましたが、沿岸漁業は「育てる」「増殖」するという立場で漁業振興を考えています。

従って、海には数多くの漁礁を投入してありますが、魚を捕る方法については、まだ研究を要すると思えます。

管理漁業をやっているだけでは、漁業所得の向上につながらないので、捕る漁法について、積極的取り組みが必要であります。

私が提案している漁業振興実証事業では、漁礁や捕る漁法の研究ができる実証船を建造する考えであります。

脇元、十三漁協が合併することが、漁業振興につながるものと確信しております。十三沖が漁場として位置づけられた時期もあったが、現在では、高山稲荷神社沖と、車力沖というふうに、日本海、西海岸の漁場が変わつてきています。

昔のように、十三沖、脇元沖、市浦沖の漁場として語られるような強力な立場にならなければなりません。そのためには、漁協は合併しなければならぬと思っております。

これからは、両組合長に対しては、機会あるたびに合併論を投げかけますが、合併は、お互いじっくり考え

て行わなければならないとも考えております。

組合合併は速急に実現することが望ましいが、このことについて、両組合から村に相談があった場合は、いつでも応ずるつもりであります。

**三和(金)さんの意見には**  
これまでの観光土産品は、十三湖のシジミ貝だけでありましたが、この土地からこれた物を観光土産品にすることは必要なのであります。

木材加工品など、地元のヒバ材を活用した観光土産品などの開発も積極的に進めたいと思えます。

村の予算は、約十六億円でありますが、そのうちの約三

億円が西洋紙や鉛筆などの消耗、物件費として使われています。

物件費や食糧費などについては、できるだけ村内で消費しようというところで、内部検討をしておりますので、商工会のみならず、村外業者並みの単価で供給サービスできるような方向で努力していただきたいと思います。

**三和(金)さんの意見には**  
若者の農業離れに対しては、農業に魅力がなく、やる気になくしているのではないかと、また、やる気を起こさせる農業にするためには、どうすればよいかという提案でありました。

圃場整備が進まなかった原因の一つとして、負担金の問題が大きなウェイトを占めている。簡単な整備一反あたり百八十万円の事業費が必要で、農家からは二十五町の負担割合いとなつていきます。

市浦村の土壌改良事業については一五割一反歩九万二千七万円(の負担金が必要)となり、その他調査費についても負担金がかかります。

相内、太田、桂川地区をまとめて、県営の圃場整備事業として考えているが、その採択要件は二百町歩以上になり、県の土地改良事業の長期計画にのせています。





# 語りあいました 豊かな地域づくり

## こんなことも……

司会 発表者から問題提起された点については、村長、担当課長から説明ありましたが、さらに深く掘り下げたためにも、みなさんの活発な意見をお願いします。

佐々木( ) 以前、ビートを植えて、県内一の特賞をいたしていたこともありましたが、その当時の畑もいまは荒地となつています。約八十アアの畑があるので、昔のように機で耕すのでは大変だし、機械を買つては採算がとれません。荒地となつた畑を全部集めて、農協が機械を買つて共同作業をするようなことはでき

ないものか。お年寄りにも少しは手依いのできると農業であつてほしいです。



磯松 佐々木ノマさん

農家所得の向上をはかるためには、畑作の兼業化と加工作物の選択が必要である…懇談会では、いろいろなことを語りあいました。

功させているが、毎年豊作に

ので視察したが、三村に約八



司会 高松 隆三さん

助役 畑であつたところに、それぞれ松や牧草を植えており、完全に生産を放棄している状態です。これをどのように活用するか、真剣に取り組み、全体がその気になることが必要だと思います。主産地形成をはかるためには、相当量の生産が必要になります。その作物を何にするか、その作物を何で、将来の畑作振興を見直さなければなりません。また、水田とはまた違った問題を含んでいます。例えば、農協青年部も何年間の中で、「にんく」を成

なる保障もないし、価格の点でも問題になると思います。休耕田の畑作利用をどうするか、ということも、これからの農業振興では、さけてとおれないものであり、畑作の兼業化というものも進めなければならぬと思う。

また、せっかく苦労して作つても売れないものを作つては何にもならない。

そういう総合的な政策の中で、考えていくことにしています。生産したものをそのまま売るのはなく、その他で加工して付加価値を高めて地域からこまごま、八百人の手がかかるのであつて、二、三十アアからの畑であれば問題ない。

そこで、水田区画をすれば、余剰労働力が出てくる。そのあまつた労働力を畑作にむけることを考えてはどうか。

また、休耕田の畑作転用、更には国有林野の活用も検討する時期にきていると思うのですが……

百人の労働力を必要としている水田等のように、植えてしまえばあとは見なくてもよいというのではなくて、水田と比較すると、かなりの日数と労働力が必要となる。

畑作をやるとは大変だという認識があるのでは、将来畑作振興を考えた場合、そういう労働力の問題を本気と考えなければならぬ。



相内 金春さん

三和( ) 助役から、畑作は労働力がかりすぎるということばがあつたが、適正規模であれば、一農家でもじゅうぶん可能なのではないか。たまたま三和の面積であるからこそ、八百人の手がかかるのであつて、二、三十アアからの畑であれば問題ない。

「ササの葉」や、カシワの葉」でもお金になる時代ですから、いまの社会は何を要求しているか、農業者の人たちは真剣に考えなければならぬ。

小笠原 たしかに水田よりも畑の方が労働力がかる。私たちが農家は、労働力をかけてくつてうすうすしている状況なので、労働力をかけて、お金になることを考えていたいただきたいのです。

畑作振興は労働力がかりすぎるから、すすまないのではなくて、お金になる方法を講ずることができないためである。

畑作振興は労働力がかりすぎるから、すすまないのではなくて、お金になることを考えていたいただきたいのです。

畑作振興は労働力がかりすぎるから、すすまないのではなくて、お金になることを考えていたいただきたいのです。



農業委員会々長 小笠原金道さん

## 畜産はいま……

司会 農業については、畑作に限らず畜産も本村では大事なところの一つです。

畜産も、最近では曲がりかどにきているともいわれていますが、畜産農家の立場からの要望意見はありませんか。